

弘前大学オープンキャンパス2025 農学生命科学部

特別企画

模擬講義



農生校舎4階
402講義室

5学科+2センターの特別シンポジウム
～農学・生命科学の最前線から、未来のヒントを探る～

事前登録不要！

出入り自由！

10:20-10:50 藤井 祥 先生 (生物学科)
植物と葉緑体の“共生”から生命を考える

光合成で有名な葉緑体ですが、実は光合成以外にも多様な機能をもっています。「細胞内共生」で獲得された葉緑体が、植物の中でどのように動いているかを考えることで、生物の生きるしくみが垣間見えるかもしれません。

10:55-11:25 橋本 勝 先生 (分子生命科学科)
寿命を20年延長させた分子「抗生物質」

20世紀初頭では、わずかな怪我でも感染症で死亡する例は多数ありました。抗生物質は多くの感染症を克服し、人類寿命増大に貢献しました。一方、耐性菌発生のきっかけも作りました。本講義では、抗生物質を分子の視点から解説します。

11:30-12:00 岩井 邦久 先生 (食料資源学科)
県産食材から健康に役立つ食品を作る～機能性食品の開発につながる研究とは～

人々の健康意識の高さを背景に、トクホや機能性表示食品など健康に役立つ様々な食品が開発されています。では、このような機能性食品を作るためにはどんな研究が必要なのでしょう。県産食材の研究を例にして解説します。

12:40-13:10 川端 二功 先生 (国際園芸農学科)
ニワトリの味覚研究の最前線と、それが導く養鶏の未来

人は食に栄養だけでなく美味しさも求めます。一方で、養鶏では栄養のみが重視され、ニワトリが感じる味覚は気にされていません。本講義では、ニワトリの味覚を知ることで見えてきた新たな養鶏の展望を紹介します。

13:15-13:45 岸岡 智也 先生 (地域環境工学科)
生き物と共生する地域社会はどう築く？

～人の暮らしに着目した研究アプローチから考える～

クマの人里への出没、コウノトリの野生復帰事業、ロードキル…生き物と人とのかかわり方はさまざま。人々や地域社会に着目した社会科学的なアプローチで、生き物との共存のありかたについて一緒に考えてみませんか。



13:50-14:05 山岸 洋貴 先生 (白神自然環境研究センター)
白神山地の自然を研究する

白神自然環境研究センターで行っている活動について白神山地の自然の話と合わせてお話いたします。

14:05-14:20 姜 東鎮 先生 (生物共生教育研究センター)
エネルギー資源作物ってどんなもの？

農場実習は農学系学部の特徴的な科目です。農場実習で育てる「ネピアグラス」や「ジャイアントミスカンサス」が、バイオマス燃料に加工されエネルギーになるまでを紹介します。

生命と食と環境—すべてがつながる科学を体験しよう！